

2010年11月、渡部朋子さんから、映像記録作業のお誘いがあり、私はカメラ機材を携えANT-Hiroshimaを訪ねた。初めてお会いする「ヒロシマと音楽」委員会の方々とともに原田雅弘先生が座っておられた。原田先生だけは、初めてではなかった。なんと約50年前、私が幼少期にヘルニアの手術していただいた先生だったのだ。以来、足掛け4年、原田先生をはじめ千葉佳子先生他、関係者の方々の証言により「広島学生音楽連盟」の記憶を映像によって紐解いていく作業が始まった。証言から知りえた新たな事実や関係者を委員会の能登原由美さんがさらに調査で掘り下げ、新たな関係者との出会いへと展開していく。その多くの証言者から得た「記憶・歴史」を未来を担う世代・今の高校生への「伝承」へとつなげていく。そんな形で本作『音の記憶・つながり』が綴られ、2013年7月に完成した。

そしてその「つながり」は、とどまることを知らない。横川シネマ、広大附属中・高等学校講堂、福山リーデンローズ他での本作上映会の場にさらに新たな「広島学生音楽連盟」関係者が参集してくれたのである。その成果が能登原さんの執念の労作ともいえる本冊子である。ドキュメンタリーによって記憶の風化を蘇らせていく。こうした経緯を経て、戦後70年の年にこのDVDが発刊された。個人的には原田先生との幼少期でのご縁のひろがりにつながりでもあるのだ。ありがたい話である。

青原 さとし/ドキュメンタリー映像作家。1961年広島生まれ。広島を拠点に地元を中心としたドキュメンタリー映画を次々に制作している。代表作：2003年『土徳―焼跡地に生かされて』、2004年『雪国木羽屋根物語』、2006年『望郷―広瀬小学校原爆犠牲者を探して』、2007年『藝州かやぶき紀行』、2010年『三百七十五年目の春風』、2011年『タケヤネの里』『時を鋳込む』、2012年『大遠忌見聞記』、『イター・ターリ パフォーマンス ひとつの応答in原爆ドーム前』、2013年『御相続』。福島県相双地方を舞台にした『土徳流離』が2015年春完成予定！

映画「音の記憶・つながり」製作の機縁

NPO法人ANT-Hiroshima
理事長 渡部 朋子

NPO法人ANT-Hiroshimaは設立以来、国内外の人びと・NGOなどとのネットワークを築き、「世界の、そして1人1人の平和づくり」を目標に、国際協力活動・平和教育活動・平和文化交流などに取り組んできました。近年、被爆者の皆様の「ヒロシマの記憶」を映像で記録し、ヒロシマを伝え受け継ぐという事業も行っています。理事長の私が「ヒロシマと音楽委員会」の委員でもあるという機縁から、「広島学生音楽連盟」の方々との出会いがありました。戦争や原爆でかけがえのない“青春”を奪われながらも絶望に耐え、音楽とともに力強く生き抜き、その歩みを豊かに語る皆さんこそ、残すべき「記憶」だという思いから、ANT-Hiroshimaは「ヒロシマと音楽委員会」と共同で映画「音の記憶・つながり」を製作し、ようやく完成いたしました。

この場を借りて、青原さとしさんをはじめ、ご出演・ご協力くださった皆様に心より厚く御礼申し上げます。また、今後一人でも多くの若い人たちが、この作品を観て感じて下さることを願っております。